



Bringing Back the Mammoth

マンモス復活計画が始動!? その方法とは



ケナガマンモスは、アジアやヨーロッパ、北米など広い範囲に生息していたとされる

これだけは覚えておきたい!!

| | |
|--|----------------------------|
| genetics [dʒənɛtiks] | 遺伝学 |
| raise [reɪz] | (資金などを) 募る、集める |
| resurrect [rɪzərɛkt] | ~を生き返らせる、よみがえらせる |
| extract A from B [ɪkstriːkt] | AをBから抽出する |
| tundra [ˈtʌndrə] | (北米・ユーラシア大陸北部などの) ツンドラ、凍土帯 |

聴くこと、声に出すことが成長への近道!

🎧 編集長おすすめトレーニング

Practice 1

英文を見ずに、CNNの生英語 (7) を聴いてみよう。

音声のダウンロード方法はpp.120-121をご覧ください。

※2021年4月号よりパソコンでの音声ダウンロードはaudiobookではなく、弊社ウェブサイトを使ったサービスに移行しました。

Check!

Practice 2

英文を見ながら音声を聴いてみよう。

必要ならゆっくりスピード (ポーズなし (8) /ポーズ入り (9)) も活用してみてください。

Practice 3

日本語訳を参考に内容を理解し、音声を繰り返し聴いて耳を慣らそう。

さらに、音声をまねながら音読すると、吸収力がグンと上がります。

プラスアルファ

余力のある方は、別冊付録の問題集にチャレンジ!

Bringing Back the Mammoth

Woolly mammoths may soon roam the earth once again. A new biosciences and genetics company named Colossal has raised \$15 million to resurrect the prehistoric creature. They plan to use DNA extracted from a mammoth's frozen **remains**, mixed with elephant DNA, to create an enormous elephant-mammoth hybrid. Proponents say bringing back the mammoth in an altered form would be useful in fighting the climate crisis and help to restore the fragile Arctic tundra ecosystem.

≫74 words (September 15, 2021)

マンモス復活計画が始動!? その方法とは

ケナガマンモスが、再び地上を歩き回る日がまもなく来るかもしれない。コロツサルという生物科学・遺伝学研究の新会社が、この先史時代の生物をよみがえらせるのに1500万ドルの資金を調達した。彼らは（永久凍土の中で）凍結されていたマンモスの死骸から抽出したDNAを使用し、ゾウのDNAと交配することによって、ゾウとマンモスの巨大な雑種を作り出すことを目指している。この計画の提唱者らによると、変更された形態でマンモスをよみがえらせれば、気候危機との闘いに役立ち、北極圏のツンドラの壊れやすい生態系を回復させる助けとなるという。

（訳 石黒円理）

リスニングのポイント

本当はカナ表記では正確な発音を表せないのですが、音の大体のイメージをつかんでいただくために、あえてカナ表記を用います。「聞こえ方」のひとつの目安にしてください。

弱く発音される母音は、しばしば曖昧な響きになり、「ア」や「ウ」のように聞こえることがある。

4行目のremains ≫ [ルメインズ]

弱く発音される母音は、しばしば曖昧な響きになり、「ア」や「ウ」のように聞こえることがあります。ここでは、remainsのre-の部分に含まれる弱い母音が、「ウ」に近い響きになっており、remainsが[ルメインズ]のように聞こえます。ほかにも、rememberが[ルメンバー]のように、repairが[ルペア]のように、replaceが[ルプレイス]のように聞こえることがあります。なお、recycleやreproduceのように、

カナ表記の中の太字は、強く発音される部分を表します。また、括弧に入っている部分は、普通、日本人の耳には聞こえないか、実際に発音されていない音を表します。

re-の部分が強く発音され、[リー]のように聞こえる語もあります。同様に、before, behind, believeなどのbe-の部分に含まれる弱い母音も、しばしば曖昧な響きになり、beforeが[ブフォア]のように、behindが[バハインド]のように、believeが[ブリーヴ]のように聞こえることがあります。

解説 南條健助(桃山学院大学国際教養学部准教授)